

生活していくとき、行動や発話が逐次選択され、実行されています。どんな知識の管理機構があるのでしょうか。

行動とか発話はコマンドで表現できますから、そういうものの知識というものがあることが分かります。現実の空間、たとえば食事処ですと、食べる場所、会計とかの場所、水飲み場とかによって、行動が独自にプランされます。それは、現実の空間の場所に行動とか会話のコマンドと関連知識がマッピングされるのでしょう。その場所に行くと、そのマッピングされた知識からコマンドが順次実行される。マッピングは空間認識の結果と知識のキー情報の一致するところで接地することで行うわけです。

コマンドの知識とキー情報の塊はコンセプトとしてノードを形成し、そのノードのグラフで表現されているでしょう。それは、空間上のグラフかもしれませんし、時間軸上のグラフ化かもしれません。基本的にグラフを実空間にマッピングすることになりますが、現実的に外れたノードシーケンスになるかも知れません。グラフの生成は基盤はノードセットなのですが、習慣的に経験を積むとグラフに成っていくということなのです。

機械翻訳も発話の内容から、今話されている状況のイメージが実空間になります。そのコマンド知識のマッピングを外国語のコマンド知識から行い、実際に文を組み立てて行くことに成ります。

行動や発話を大局的に管理する機構は以上のようなものではないでしょうか。結構、スッキリした人工知能を設計できるようになるのではないのでしょうか。

おわり